

第2節 資料館における社会教育活動

1. 古代ウォーク関連展示『東岐波の出土品』

令和元年度の山口県立山口博物館(以降「山口博物館」と)の共催事業『講座 古代ウォーク』は、宇部市教育委員会の共催により、宇部市東岐波地区にて開催することとなったが、宇部市教育委員会の発案で、会場となる東岐波ふれあいセンターロビーにて『東岐波の出土品』と題し、令和元年10月4日(金)から24日(木)の会期で資料展示が計画されたことから、当館が資料の選定を行い、解説パネルを作成することとなった。

展示では、古代ウォークで実際に訪れる東岐波地区の瀬戸内海沿岸部の遺跡を対象とし、縄文時代の資料として月崎遺跡(縄文時代前～晩期の集落遺跡、遺物包含層)出土の縄文土器と石器を、古墳時代の資料として花ヶ池窯跡(古墳時代後期の須恵器窯)および若宮古墳群(古墳時代後期の5基からなる横穴式石室墳)、月崎岬古墳群(古墳時代後期の3基からなる横穴式石室墳)出土の須恵器類を、古墳時代から古代にかけての資料として羽雁ヶ浜遺跡(古墳時代中期～飛鳥時代の製塩遺跡)出土の美濃ヶ浜式土器を紹介した。また、宇部市教育委員会が用意した羽雁ヶ浜遺跡出土品には、最古式(渡辺^{註1}V類)の製塩土器脚部が欠落していたことから、補足資料として当館所蔵の美濃ヶ浜遺跡出土品を展示し、脚部の形態変遷を提示した。

今回展示した宇部市所蔵の資料は、宇部市中西部の船木地区に所在する「学びの森くすのき」にて収蔵、展示が行われているが、宇部市東部に位置する東岐波地区とはおよそ15kmの隔りがあることから、東岐波地区住民が地域の遺跡出土品を目にする機会は少ないと想像される。当展示のように、古代ウォークが契機となり、地域における遺跡情報の公開が活発になれば、当館および山口博物館としても望外の喜びである。

【註】

1) 渡辺一雄(1994)「山口県」、近藤義郎(編)『日本土器製塩研究』、青木書店、東京



写真6 展示看板



写真7 展示の様様

2. 山口県立山口博物館との共催事業『講座 古代ウォーク』

当館は、平成27年(2016)6月24日に山口博物館と連携協力協定を締結した。以降、毎年継続して実施している事業が『講座 古代ウォーク』である。これは、山口県内を県央部、東部、北部、西部の4ブロックに分け、順次見学地域を設定し、出土資料を確認し、実際に遺跡地をめぐるという内容である。実施の際に重要視している点は、当該自治体と連携しながら、未公開の資料も含め、出土資料を確認すること、周辺地形と遺跡の立地を確認するため、できる限り遺跡地まで歩いて行くことなどである。

令和元年度は県西部を対象とすることが決定しており、山口博物館との協議により、小地域として前頁の通り宇部市東岐波を選定し、宇部市教育委員会の共催を得て、10月12日(土)に事業を開催することとなった。東岐波は、現在では宇部市東部の一地区となっているが、西岐波とともにかつては吉敷郡の南西端部に含まれており、月崎岬から丸尾岬にかけての湾岸には広大な干潟が形成され、その沿岸部に特徴ある遺跡が分布している。

開催にあたり、1月22日(火)にコース詳細設定のため、現地視察と学びの森くすのきにて出土資料の確認を行い、8月7日(水)に東岐波ふれあいセンターにて開催される展示(前項)の資料を選定した。10月3日(木)に行った展示設営の際にコースを最終確認し、開催日を迎えることとなった。

当日は台風の接近により生憎の曇天であったが、14名の参加者を迎え講座を開催した。当日のスケジュールは以下の通りである。

12時30分～13時00分 受付

13時00分～13時30分 東岐波ふれあいセンターにて出土資料の解説と熟覧(写真8)

13時35分 花ヶ池窯跡見学と解説(写真9)

14時00分 羽雁ヶ浜遺跡(東岐波体育広場)見学と解説(写真10)

14時30分 若宮古墳群見学と解説(写真11)

15時10分 月崎岬古墳群見学と解説

15時25分 月崎遺跡見学と解説(写真13)

16時15分 東岐波ふれあいセンターに戻りアンケート記入、解散

往復約5kmの行程であり、月崎岬古墳群へは道路が整備されていないことから砂浜を歩く(写真12)場面もあったが、遺跡の立地を確認しながら参加者全員が無事に歩き終えることができた。参加者からは「とても興味のあるテーマで、説明も詳しく楽しいウォークでした」「専門職の方から話を聞けるのは楽しいです。月崎遺跡にはこのような機会がないと行けなかったと思います」「身近なところに遺跡がたくさんあってびっくりしました。昔のことを色々想像してみるの楽しいなと思いました」などの声が寄せられた。

東岐波地区では、古く昭和29年(1954)に設立した東岐波郷土誌研究会が現在でも活動を継続しているが、発足はその前年に実施された大須賀遺跡の発掘調査を契機とするそうである。その後、昭和36年(1961)から3年間、小野忠熙氏が中心となり宇部市域学術調査団が組織され、東岐波では月崎遺跡、羽雁ヶ浜遺跡、若宮古墳群の発掘調査が実施されている。今回訪れた遺跡には、事業として「文化財の保護顕彰」を掲げている郷土誌研究会により記念石柱が建立されており(若宮古墳群:平成21年3月、月崎岬古墳群:平成16年3月、月崎遺跡:平成13年3月)、県内でも文化財に関する市民活動が盛んな地域の一つと言って良い。その一方で、地域住民が十分に遺跡をはじめとする文化財を認識している訳ではないことから、当事業の果たす役割は大きいと感じられた。

【註】

1)小野忠熙ほか(1968)『宇部の遺跡』,「宇部の遺跡」編集委員会(編),宇部



写真8 宇部市東岐波ふれあいセンターでの資料熟覧



写真9 花ヶ池窯跡解説



写真10 羽雁ヶ浜遺跡解説



写真11 若宮古墳群解説



写真12 月崎岬古墳群へ

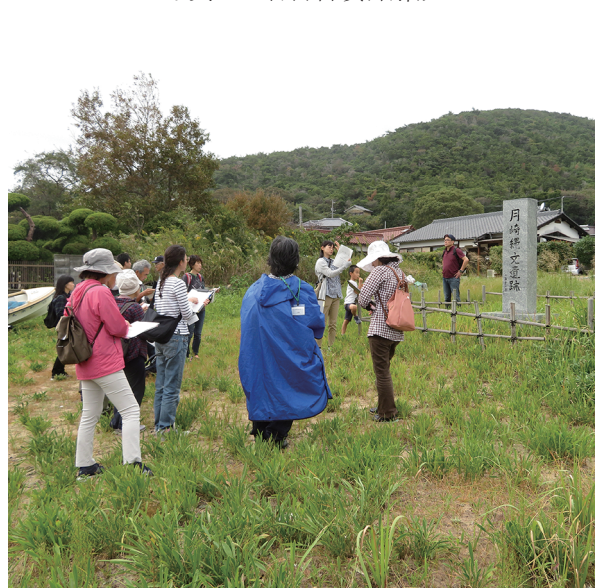


写真13 月崎遺跡解説

3. 山口県立山口博物館との共催事業『テーマ展 弥生時代と米作りー食生活の革命！』

平成30年度後半に、山口博物館考古学担当学芸員より、次年度の山口博物館テーマ展にて弥生時代の米作りに関する展示を開催する予定であり、当館には連携協力協定に基づき協力して欲しい旨相談があった。しかし、その後は具体的な進展を見せず、再度山口博物館より相談があったのは令和元年8月末のことであった。

8月29日(木)当館で行った打ち合わせにおいて、山口博物館より、弥生時代の米作りに関連する展示資料リスト(案)の提示があった。前年度末段階でテーマ展の開始は11月26日(火)と決定されていたものの、当館としては10月以降、古代ウォークの開催や東岐波ふれあいセンターでの資料展示、山口県大学ML連携特別展の開催、学生会館(仮称)新営に伴う予備発掘調査の準備など多忙を極めることから、当館の実質的な展示参加は、平成18年度から27年度にかけて継続して開催していた公開授業『古代人の知恵に挑戦！古代のお米をつくってみよう』の成果公開に限定し、それ以外では、展示品の選定と解説パネルの校正、補足パネルの作成に協力することとなった。

展示の構成は①稲作の伝播(縄文から弥生へ、大陸系磨製石器)、②弥生の米作り(山口県の遺跡に見る弥生の米作り、宮ヶ久保遺跡～弥生時代の木の道具、真尾猪の山遺跡と井上山遺跡～大陸系磨製石器の様相)、③縄文と弥生の融合(弥生貝塚)、④金属器の登場、⑤弥生時代の米作り実験(当館展示)となり、(財)山口県埋蔵文化財センターの協力により、多数の関連実物資料が公開された。

テーマ展は、予定通り令和元年11月26日(火)にオープンし、令和2年1月13日(月・祝)に終了した。当館は11月21日(木)に展示設営を、1月17日(金)に撤収作業を行った。会期中の休日は、教育学部附属山口小学校改修工事に伴う立会調査に従事したこともあり、残念ながら開催状況を確認することはできなかったが、1,718名もの方々に足を運んでいただいたと報告を受けた。

山口博物館での考古学を主題としたテーマ展の開催は、およそ10年ぶりとのことで、山口県としては意義のある情報発信となったであろうが、県立施設と国立大学施設が連携協力した事業としては、準備不足の感は否めず、内容を十分に吟味した展示とはならなかったように感じられる。今回の反省を糧に、今後の連携事業については、相互のスケジュール調整をしっかりと行いたい。



写真 14 展示の様相



写真 15 展示会場でのビデオ上映